

St. Luke's International University Repository

Efforts to Create Teaching Materials for 'People-Centered Care Partnership' in which Community Members and Healthcare Professionals Think Together

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2023-04-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高橋, 恵子, 中村, めぐみ, 有森, 直子, 菱沼, 典子, 亀井, 智子, 麻原, きよみ, 射場, 典子, 新福, 洋子, 朝澤, 恭子, 大森, 純子, Takahashi, Keiko, Nakamura, Megumi, Arimori, Naoko, Hishinuma, Noriko, Kamei, Tomoko, Asahara, Kiyomi, Iba, Noriko, Shimpuku, Yoko, Asazawa, Kyoko, Omori, Junko メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.34414/00016732

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



短 報

市民と保健医療専門職が共に考える 「People-Centered Care パートナーシップ」の 教材作成への取り組み

高橋 恵子¹⁾ 中村めぐみ²⁾ 有森 直子³⁾ 菱沼 典子⁴⁾ 亀井 智子¹⁾
麻原きよみ¹⁾ 射場 典子¹⁾ 新福 洋子⁵⁾ 朝澤 恭子⁶⁾ 大森 純子⁷⁾

Efforts to Create Teaching Materials for ‘People-Centered Care Partnership’ in which Community Members and Healthcare Professionals Think Together

Keiko TAKAHASHI¹⁾ Megumi NAKAMURA²⁾ Naoko ARIMORI³⁾
Michiko HISHINUMA⁴⁾ Tomoko KAMEI¹⁾ Kiyomi ASAHARA¹⁾ Noriko IBA¹⁾
Yoko SHIMPUKU⁵⁾ Kyoko ASAZAWA⁶⁾ Junko OMRI⁷⁾

〔Abstract〕

People-Centered Care (hereinafter referred to as PCC) refers to efforts to improve health issues in individuals and communities that are led by community members and in partnership with healthcare professionals (hereinafter referred to as Professionals). Researchers are working on the development of teaching materials for PCC Partnership that is being thought about by community members and professionals in collaboration, with the aim of partnering with community members and professionals to improve global health issues, including issues related to Japan’s super aging society with low birthrate. We herein report the efforts and results of the preparation of the teaching materials. In the preparation of the teaching materials, the results of research on PCC were aggregated, and the contents and methods of teaching materials were examined by experts and parties familiar with PCC. As a result, we created e-learning and DVD materials for (1) Part 1: What is PCC (animated video), (2) Part 2: What is PCC practice (live-action video), and (3) Part 3: What is PCC activity (live-action video), focusing on 8 elements of PCC definition and community members-professional partnership essential for PCC. We plan to investigate the feasibility of using this material in the future.

〔Key words〕 People-Centered Care, Partnership, Community Members, Healthcare professionals, Creation of teaching materials

〔要旨〕

People-Centered Care (PCC) とは、市民がケアの主体となり、保健医療専門職（以下：専門職）とパートナーを組んで行う、個人や地域社会における健康問題の改善に向けた取り組みのことをいう。研究者らは、我が国の少子超高齢社会の課題をはじめ、グローバルな健康課題の改善に向けた市民と専門職とのパートナーシップを目指し、市民と専門職が共に考える「PCCパートナーシップ」の教材開発に取り組んでいる。今回は、その教材作成の取り組みとその成果を報告する。教材作成にあたって、PCCの研

- 1) 聖路加国際大学大学院看護学研究科・Graduate School of Nursing Science, St. Luke’s International University
- 2) 聖路加国際大学国際・地域連携センター・Center for International and Community Partnerships, St. Luke’s International University
- 3) 新潟大学大学院保健学研究科・Graduate School of Health Sciences, Niigata University
- 4) 前三重県立看護大学看護学部・Former School of Nursing, Mie Prefectural College of Nursing
- 5) 広島大学大学院医系科学研究科・Graduate School of Biomedical and Health Sciences, Hiroshima University
- 6) 東京医療保健大学東が丘看護学部・Division of Nursing, Faculty of Nursing, Tokyo Healthcare University
- 7) 東北大学大学院医学系研究科・Graduate School of Medicine, Tohoku University

究成果を集約し、PCCに精通する専門職と当事者で教材内容と方法について検討を重ねた。その結果、PCCの定義とPCCに欠かせない市民と専門職のパートナーシップの8要素を軸に、「パート1：PCCとは（アニメーション動画）」「パート2：PCCの実践例（実写動画）」「パート3：PCCの活動事例（実写動画）」のeラーニングとDVD教材を作成した。今後、本教材の活用可能性について調査を行う予定である。

【キーワード】 People-Centered Care（市民中心のケア）、パートナーシップ、市民、保健医療専門職、教材作成

I. はじめに

わが国は、世界で最も高い高齢化率であり、今後も高い水準が続くと見込まれ、ますます人々の病気や介護の負担は上昇する¹⁾。さらに、医療技術の飛躍的な進歩がみられる反面、倫理的課題、家族形態の縮小化、高齢者の社会的孤立や健康格差、社会的情勢の変化、新型コロナウイルス感染症の世界的流行など、人々は深刻な健康問題に直面している¹⁻³⁾。さらに、少子化による人口減少を伴い、将来、保健医療人材の不足が懸念され、従来型の保健医療従事者主導による患者との関係や医療形態には限界があり、市民主体、地域主体のケア形態を開発することが緊急の課題である。わが国は地域を基盤とした「地域包括ケアシステム」へとシフトし、従来の病院完結型から、医療・ケアと生活が一体化した地域完結型の体制への転換が図られている⁴⁻⁵⁾。

そのような中、聖路加国際大学は、2003年より市民が主体的に自分たちの健康を自分たちで創る社会を目指し、そのパートナーとしての看護職のあり方であるPeople-Centered Careという市民主導のケア形態の開発を先駆的に進めてきた⁶⁾。研究者らは、そのプロジェクトに参与し、「既存の医療における関係性を超えて、市民と保健医療者が同じ土俵に立ち、共通する悩みや苦悩、潜在的ニーズを抱える人々が直面している健康問題の解決策を探ること」そして「市民とのパートナーシップに基づき、その実現化のための市民主導型の看護実践モデルを構築すること」を目的に取り組んできた。その結果、子どもから高齢者までのさまざまなライフサイクル及び、病気からよりよい健康状態といった広範囲のコミュニティへの15のプロジェクトによるケアアプローチを推進し、2007年度に総括することができ、あらゆるコミュニティに普遍的かつ適用可能なパートナーシップに基づく新たなケア形態の方法論を示した⁷⁾。さらに、PCCの活動がもたらした成果として、個人の健康問題の改善や解決に留まらず、活動グループ、コミュニティの各段階における「資源の獲得」「関係の進展」「能力の開発」「QOLの充足感」に関わる意識変革、さらに活動を継続的に発展させるケアシステムの拡充にまで及ぶことが示唆された⁸⁾。研究者らは、このPCCの取り組みが10年経過した2015年に、PCCの普及を目指し、PCCに関する文献検討⁹⁾に加え、PCC事業責任者の意見を交えてPCC概念を再構築した¹⁰⁾。その結果、PCCとは「市民が主体となり、保健医療従事者とパートナーを組み、個人や地域社会における健康問題の改善に向けた取り組み」と定義され、市

民主導による健康生成（People-Centered Care）の鍵となる市民と保健医療専門職とのパートナーシップの要素として、「互いを理解する」「互いを信頼する」「互いを尊敬する」「互いの持ち味を活かす」「互いの役割を担う」「共に課題を乗り越える」「意思決定を共有する」「共に学ぶ」の8要素が見出された¹⁰⁾。

このPCCの考え方は、国連¹¹⁾が提唱する持続可能な開発目標（Sustainable development goals：SDGs）の達成の一つの方策となりうると考えられ、WHOは“What’s People-Centered Care”をテーマに動画配信を世界の人々に向けて続けている¹²⁾。その動画では、PCCは市民や当事者の生活の質に貢献するだけでなく、保健医療専門職の取り組む意欲に繋がるケアとしても示されている。また、当事者が望む生活を実現するのは、その人自身であり、専門職の力だけでは限界がある。つまり、市民の価値観を尊重した健康生成の実現には、市民と専門職が共に考えることが必要である。

そこで、研究者らは、市民と専門職とのパートナーシップの向上を目指し、市民と専門職が共に考える「PCCパートナーシップ」の教材開発に取り組んでいる。本稿では、市民と専門職が共に考える「PCCパートナーシップ」教材作成のプロセスとその成果を報告する。

II. 教材の作成方法

市民と専門職が共に考える「PCCパートナーシップ」教材の作成プロセスを、以下に示す。

1. 教材の枠組み

本教材で用いるPeople-Centered Care（以下：PCC）は、高橋ら¹⁰⁾が定義した「市民が主体となり、保健医療専門職とパートナーを組み、個人や地域社会における健康問題の改善に向けた取り組み」を基盤においた。また、教材の枠組みは、高橋ら¹⁰⁾のPCCを実現する上で欠かせない、市民と保健医療専門職とのパートナーシップの8要素である「互いを理解する」「互いを信頼する」「互いを尊敬する」「互いの持ち味を活かす」「互いに役割を担う」「共に課題を乗り越える」「意思決定を共有する」「共に学ぶ」を用いた（図1）。



図1 PCCにおける市民と専門職のパートナーシップの要素

2. 教材の目的・目標

教材の目的：個人・地域社会における健康課題の改善に向けて、市民と専門職が考えを共有し、市民と専門職とのパートナーとしての認識を高めることができる。

教材の目標：市民が自分の健康を創り守るために、市民ができることは何か、また専門職ができることは何かを考え、お互いがどのような姿勢でパートナーを組むとよいのかを考えることができる。

3. 教材の対象

作成教材は、「市民」と「専門職」を対象とした。「市民」とは、特に個人や地域社会における健康課題の現状を打破したいと考え、既に専門職と共に取り組んでいる者、または、これから共に取り組もう（取り組みたい）としている者を対象とした。活用場所としては、健康支援活動グループ、自治体、教育機関、企業、医療機関内の当事者活動グループを想定した。「専門職」とは、同じく個人・地域社会における健康課題の改善に向けて、既に市民・当事者と共に取り組んでいる者、またこれから共に取り組もう（取り組みたい）と考えている者を対象とした。全ての専門職を対象としているが、特に、看護職を意識して教材を作成した。教材の普及先・案内先としては、医療機関、訪問看護ステーション、保健所・保健センター、教育機関、健康支援活動グループなどを想定した。

4. 作成のプロセス

市民と専門職が共に考えるPCCパートナーシップの教材作成にあたって、以下のステップで作成をした。

1) ステップ1：研究成果の収集

研究者らが取り組みまとめてきた2003年からのPCCに関する研究成果となる資料（研究論文⁷⁻¹⁰⁾、パンフレット¹³⁾、PCC活動事業の報告書⁶⁾等）を収集し、内容を確認した。

2) ステップ2：教材内容と提供方法の検討

次に、ステップ1で収集した資料を集約し、PCC教材のたたき台を作成し、それをもとにPCCの分野に精通する専門職10名と市民・当事者を代表する1名の計11名で教材の内容と提供方法について検討を重ねた。

3) ステップ3：教材内容と提供方法の決定

ステップ2に示す教材内容と提供方法について検討を重ね、教材の構成と具体的な内容と提供方法を決定し、研究者らのそれぞれの役割分担を行った。

4) ステップ4：教材作成

内容と方法の決定後、PCCの定義、PCCの実践例、PCC活動事例の順に、教材を作成していった。PCCの活動事例については、実際に市民と専門職が共に活動するPCC事業の活動メンバーの協力を得て進めた。

5. 教材作成にあたっての倫理的配慮

教材動画に登場する人物、使用する場所については、出演者と施設及び事業の責任者に本教材の作成目的を説明し、施設への撮影許可及び各事業責任者・出演者の承諾を得て作成した。

Ⅲ. 結果

1. 作成した動画教材の概要

1) タイトル

共に考えよう「市民主体のケア People-Centered Care」

2) 教材の構成

前記した「PCCの定義」と「市民と専門職とのパートナーシップの8要素」に沿って、表1に示す通り、①「パート1：PCCとは」、②「パート2：PCCの実践例」、③「パート3：PCCの活動事例」の3部構成からなる動画教材を作成した。以下に各パートの説明を示す。

表1 教材の構成

<タイトル>	共に考えよう「市民主体のケア People-Centered Care」
【パート1】	ピープルセンタードケア（PCC）とは
【パート2】	ピープルセンタードケア（PCC）の実践例
【パート3】	ピープルセンタードケア（PCC）の活動事例

(1) パート1：PCCとは

<パート1>では、表2に示すように、PCCとは何かについて、2本のアニメーション動画を用いて紹介した。1本目は、「ピープル・センタード・ケア（PCC）とは」のテーマで、なぜPCCが必要なのかを約3分間の動画で説明した。2本目は、PCCに欠かせない市民と専門職とのパートナーシップの8要素（「互いを理解する」「互いを信頼する」「互いを尊敬する」「互いの持ち味を活かす」「互いに役割を担う」「共に課題を乗り越える」「意思決定を共有する」「共に学ぶ」）に焦点を当てて1つ1つ丁寧に説明した、計7分間の紹介動画を作成した。

(2) パート2：PCCの実践例

<パート2>では、表3に示すように、地域の健康支援活動の場で行われている市民と看護職の健康相談場面を例に、8つのパートナーシップの要素を3場面に分けて、PCCの実践例を紹介した。このパート2の教材の特徴は、パートナーシップを高めるために欠かせない行動姿勢のポイントを、専門職側だけでなく、市民側も含めテロップで表示し、双方の行動姿勢について共に考える教材になるよう工夫した。

(3) パート3：PCCの活動事例

<パート3>では、市民と専門職とのパートナーシップの8要素の視点から、多彩なメンバーで実際に活動しているPCC事業のうち、5つのPCCの活動事例を取り上げて紹介した。各事例のケア対象は、表4に示すとおり、子どもから高齢者までのさまざまなライフサイクル及び、病気からよりよい健康状態の広範囲の活動団体であった。事業の活動メンバーは、市民・当事者、家族、看護職、医師、保健医療専門職、図書館司書、保育士、大学教員、学生ボランティア、地域ボランティアなど多彩なメンバーだった。5つの各事例の映像時間は、各4～9分で作られた。パート3の作成には、5つのPCC事業メンバーたちが協力してくれた。

3) 視聴方法

動画教材の視聴方法は、誰でも、どこでも、いつでも、自由に視聴できるように、「DVD」と「Web上」との2種類による視聴方法を準備した(写真1)。Webについては、動画教材を掲載する目的で、People-Centered Careのサイトを新たに開設した。

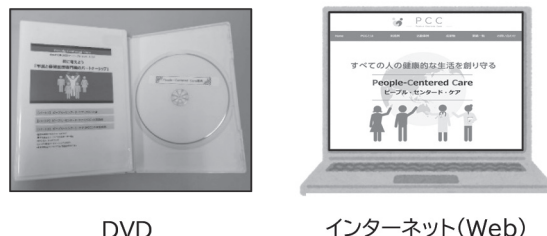


写真1 教材の視聴方法 (DVDとWeb上の2種類)

表2 パート1：PCCとは

【パート1】 ピープル・センタード・ケア (PCC) とは (計10分)	
①ピープル・センタード・ケア (PCC) (映像時間：3分)	
	<p>「ピープル・センタード・ケア (PCC) とは何か」について、アニメーションでの紹介動画</p> <p><特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・短時間で簡潔に ・アニメーション動画で紹介する ・分かりやすい言葉で説明
②PCCに欠かせない「市民と専門職とのパートナーシップ」(映像時間：7分)	
	<p>PCCに欠かせない「市民と専門職とのパートナーシップの8要素」についての紹介動画。</p> <p><特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・欠かせないパートナーシップの8要素を1つ1つ丁寧に説明する ・スライドとしても使用可能

表3 パート2：PCCの実践例

【パート2】 ピープル・センタード・ケア (PCC) の実践例 (10分)	

【市民と看護職との健康相談場面】

地域にある健康相談に市民が訪れた設定で、市民と看護職の健康相談場面を例にPCCを紹介する。市民と専門職とのパートナーシップの8要素をScene1からScene3の3場面に分けて各3分程度(計10分)で、PCCの実践例を紹介した。教材の特徴は、パートナーシップを高めるために欠かせない行動姿勢のポイントを、専門職側だけでなく、市民側も含めテロップを表示し、双方の行動姿勢について共に考える教材になるよう工夫した。

IV. 考 察

本教材は、作成の過程から、作成メンバーに専門職だけでなく当事者の立場の市民が参与し、双方の視点を取り入れて教材内容を検討し、作成してきた。そのため、作成メンバー全員の合意が得られたPCCパートナーシップの動画教材を作成することができた。特に、本教材の特徴と工夫から評価できる点を以下に示す。

<パート1>の教材は、3分程度の短時間で簡潔に、PCCのパートナーシップの必要性とその意義が示された点が評価として挙げられる。特に、アニメーション動画を用いたことで、多世代に、また国際的にも受け入れやすい動画教材となったのではないかと考える。

<パート2>の教材は、パート1で紹介した「PCC定義」と「市民と専門職とのパートナーシップの8要素」に沿って、PCCの実践例を用いて、具体的に市民側と専

表4 パート3：PCCの活動事例

【パート3】 ピープル・センタード・ケア (PCC) の活動事例 (5事例) 各5~9分	
 <p>地域に開かれた健康情報サービス 「聖路加健康ナビスポット:るかなび」</p>	<p>1. <聖路加健康ナビスポット：るかなび> (5分40秒) 【活動目標】 るかなびは、「市民ひとり一人が、主体的に自分の健康を創り守る社会をめざす、健康情報サービス活動を行う」ことを目標に活動しています、大学が地域に開いた健康情報サービスの場です。 【ケア対象】 子どもから高齢者まで、誰でも (市民) 【活動メンバー】 看護職、図書館司書、サポーター (ボランティア)、当事者団体、自治体、企業など、多彩なメンバー</p>
 <p>家で死ぬるまちづくり はじめの一歩の会</p>	<p>2. <家で死ぬるまちづくり「はじめの一歩の会」> (5分7秒) 【活動目標】 はじめの一歩の会は、「住み慣れたこのまちで最期まで自分らしく暮らせるまちづくり」を目標に活動しています。高齢者の方たちと共にここで暮らし続けることを考え、日常生活の傾聴やお手伝いなどを一緒にするボランティア団体です。 【ケア対象】 高齢者と、その家族・関係者 【活動メンバー】 民生委員、ボランティア経験者、看護師、薬剤師、ケアマネジャー、元区役所職員など、多様な特技や経験を持ち、中央区にゆかりの深い人々</p>
 <p>People-Centered Careの実践例 -NPO法人からだフシギの活動から-</p>	<p>3. <NPO法人 からだフシギ> (4分52秒) 【活動目標】 からだフシギは、「5-6歳児の子どもが体について学ぶ環境づくり」を目標に活動しているNPO団体です。5歳児対象のからだのお話し会、また、保育士や幼稚園教諭、図書館司書の方々が、子どもにからだのことを伝える担い手になれるように、「からだ先生」研修会を提供しています。 【ケア対象】 子ども (特に5-6歳児) と子どもにからだのことを伝える人 【活動メンバー】 看護職、医師、保育士、幼稚園教諭、図書館司書、親、大学教員、学生など</p>
 <p>共同推進型PCC 実践例 大学の力を地域に生かす ~にいがた難病パートナーシップ(NNP)~ Niigata 新潟大学 にいがた難病パートナーシップ</p>	<p>4. <にいがた難病パートナーシップ (NNP)> (7分27秒) 【活動目標】 にいがた難病パートナーシップは、「地域の課題に対してPeople-Centered-Careの概念を基盤としながら地域の課題を解決していく方法を考える」ことを目標に活動しています。 【ケア対象】 難病を持つ当事者・家族 【活動メンバー】 NPO法人新潟難病支援ネットワーク (理事・相談員)、大学 (教員・学部)、当事者団体、難病に関連するあらゆる関係者</p>
 <p>People-Centered Care 市民が主体となるケア：ピープル・センタード・ケア 共に考えよう 「市民と保健医療専門職のパートナーシップ」 PCCパートナーシップの活動事例 多世代交流ディプログラム「聖路加和みの会」</p>	<p>5. <多世代交流ディプログラム「聖路加和みの会」> (9分12秒) 【活動目標】 和みの会は、「子ども、青年、中・老年世代の者がお互いに自分たちの持っている能力や技術を出し合って、自分自身の向上と、自分の周りの人々や社会に役立つような健全な地域づくりを実践する活動で、一人一人が活動の主役になること」を目標に活動しています。 【ケア対象】 高齢者 (65歳以上) と子ども (小学生) 【活動メンバー】 看護教員、地域ボランティア、学生ボランティア など</p>

門職側の行動姿勢を描写し紹介できた点が評価できる。特に、専門職だけでなく、市民側の姿勢を、テロップに表示し、市民が自分の望む健康生活を送るために、市民に何ができるのかを示すことができ、今までにないユニークな教材になったと考える。

＜パート3＞の教材は、ケア対象の異なる5事業の活動事例の教材を作成したことで、広く受け入れられる教材になったと考える。特に、各事業の多彩な活動メンバー（専門職と市民）とのパートナーシップによる事業活動の意義を伝えることができ、その教材が各事業の協力で作成された点も評価できる。

教材の視聴方法には、「DVD」と「Web上」の2つの方法があり、いつでもどこでも教材を視聴できる点も本教材の特徴である。

人々が直面するさまざまな健康課題の中で、その人が望む生活を送り続けるためには、専門職の力だけでは限界があり、市民と専門職とのパートナーシップは必須である。本教材は、市民と専門職の双方の姿勢が分かりやすく示されており、そのパートナーシップを育む一助になると考える。本教材は、既に市民と専門職が共に活動している活動団体（事業）が、より双方のパートナーシップの向上を図る目的で、また新たに市民と専門職が共に活動する事業をつくり始める際の手掛かりとなる教材として作成した。市民と専門職とが共に活動する場は多岐に渡り、市民を対象とした市民活動の場、専門職を対象とした生涯教育や看護基礎教育の場など、幅広い場で本教材は使用可能であると考える。

今後、本教材の活用可能性を評価するため、教材の分かりやすさ、使いやすさと共に、活用の対象・場・方法についてのユーザー調査を専門職と当事者（市民）を対象に行い、教材の完成に繋げていきたい。更に、Web上でいつでも、どこでも、自由に活用できる教材であることから、英語版の教材を作成し、広く世界で活用できる教材に仕上げていきたいと考える。

V. おわりに

市民と専門職が共に考える「PCCパートナーシップ」教材を、市民と専門職と共に作成した。今後は、本教材の活用可能性を評価し、教材の完成に繋げていきたいと考える。

謝 辞

本教材を作成するにあたり、ご協力いただいた皆様に、深く感謝いたします。

本取り組みの一部を、第27回聖路加看護学会学術集会で発表した。

本教材は、JSPS科研費『市民と保健医療者が共に考える「市民主導型ケア」教材のグローバルスタンダード開発』（課題番号19H03966：研究代表 高橋恵子）の助成を受けて作成した。

引用文献

- 1) 内閣府. 令和4年版高齢社会白書 [Internet]. https://www.8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2022/zenbun/04pdf_index.html [参照 2022-10-25]
- 2) 厚生労働省. 健康日本21（総論） [Internet]. https://www.mhlw.go.jp/www1/topics/kenko21_11/s0.html [参照 2022-10-25]
- 3) 日本看護協会. 看護実践情報 [Internet]. <https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/rinri/text/basic/problem/index.html> [参照 2022-10-25]
- 4) 日本看護協会. 2025年に向けた看護の挑戦: 看護の将来ビジョン [Internet]. <https://www.nurse.or.jp/home/about/vision/pdf/vision-4C.pdf> [参照 2022-10-25]
- 5) 厚生労働省. 厚生労働白書令和4年版, 社会保障を支える人材確保, 2022 [Internet]. <https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/21/dl/zentai.pdf> [参照 2022-10-25]
- 6) 聖路加看護大学21世紀COEプログラム. 市民主導型の健康生成をめざす看護形成拠点 研究成果最終報告書2007 [Internet]. <http://hdl.handle.net/10285/2446> [参照 2022-10-25]
- 7) 大森純子ほか. People-Centered Careの戦略的実践II-活動とともに拡大するアウトカム-. 聖路加看護学会誌. 2009;13(2):17-24.
- 8) 有森直子ほか. People-Centered Careの戦略的実践 パートナーシップの類型. 聖路加看護学会誌. 2009; 13(2):11-6.
- 9) Kamei, T., Takahashi, K., Omori, J., et al.: Toward Advanced Nursing Practice along with People-Centered Care Partnership Model for Sustainable Universal Health Coverage and Universal Access to Health, Rev. Latino-Am. Enfermagem, 2017. 25, e2839, doi:10.1590/1518-8345.1657.2839.
- 10) 高橋恵子, 亀井智子, 大森純子ほか. 市民と保健医療従事者とのパートナーシップに基づく「People-Centered Care」の概念の再構築, 聖路加国際大学紀要. 2018;4:9-17.
- 11) United Nations: Transforming our world: The 2030 Agenda for Sustainable Development, 1 - 35, Retrieved. 2015 [Internet]. <https://sustainabledevelopment.un.org/post2015/transformingourworld/publication> [cited 2022-10-25]
- 12) WHO Video: What are integrated people-centred health services [Internet]. <https://www.who.int/mongolia/multi-media/item/what-is-people-centred-care>, [cited 2022-10-25]
- 13) 高橋恵子ほか. PCCガイド, 2017 [Internet]. http://university.luke.ac.jp/pcc/jgl9rh0000004wyz-att/pcc_pocket_guide_jp.pdf [参照 2022-10-25]